

2014 年に向けての【学習アドバイス】 現代文

<読解力>

まずは文章を「ただなんとなく読む」ことから脱しよう。「目的を持って読む」こと、そして「目的通りに伝わる」ことを目標にほぼ毎日読んでほしい。

- ①各段落が何について述べているか。(話題把握)
- ②筆者は何を伝えたいのか。(情報選択)
- ③どう読み手に説明しようとしているのか。(関係把握)

これらを的確につかむ目的を読み終わるまで忘れないで、ゆっくりでいいから、もどきながらでいいから、辞書などで調べながらでいいから、読む。読む題材は教科書でも問題集でもテキストでも新聞でも雑誌でも吊革広告でもかまわない。読むことを習慣にしよう。そして読み終わったら記憶だけであらすじをつくってみよう。図にまとめるのも効果的だ。それによって読解力と全体把握力と記憶力は飛躍的に向上する。

<速読力>

文章を、目的を持って読みながらも「限界よりも少し遅いスピードで読む」ことを目標に自分をいじめてほしい。

- ①ペンをもって、ペンを活字に合わせ縦に移動させながら読む。(読むスピードをペンの移動スピードで調整する。具体例はもっと速く、抽象理論は軽くブレーキで)
- ②頭の中でも早口だと棒読みになりやすいので、意識的に抑揚をつけながら読む。(速度があがるとやがて視読になるが、それでも抑揚意識は変わらない)
- ③速く読むと名詞ばかりに注目しがちになるので、助詞(は・が・を・に・へ・と等)に注目しながら読む。(助詞の切れ目ごとに一拍あけながら読むと理解しやすい)

ほぼ毎日、ペンの移動スピードを少しずつ上げて、ついてこれるぎりぎりのスピードで自分を追い詰めてみよう。そして読み終わったら記憶だけであらすじをつくることも忘れずに。それから、人は未知の語彙にあふれた文章や、未知のジャンルの文章を素早く読むことは、できない。様々な語彙と様々なジャンルに対する教養も、現代文の文章から得る習慣もつけてほしい。

<解答力>

まずは設問をしっかり正しく読むことを心がけよう。

- ①何について聞いているのか。(設問の話題)
- ②何を答えればいいのか。(疑問の中心)
- ③他に何を注意すればいいのか。(追加条件)

これらをしっかり確認したうえで、文章に戻る前にある程度答えを想像・予測してみるといい。推理力や思考力が鍛えられる。そのあとで、文章から答えやヒントを探そう。

- ①評論における傍線部説明問題は答えを探す。
- ②小説における傍線心理問題は答えではなくヒントを探す。

そのうえで、本文と明らかに矛盾する選択肢表現を見つける目的で、吟味してほしい。